

インクルーシブ教育の実現に向けた 専門職支援員の効果的な活用について

- 横浜国立大学 D&I 教育研究実践センターによる取組 -

企画者	泉真由子	(横浜国立大学)
	高野陽介	(横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部)
司会者	高野陽介	(横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部)
話題提供者	泉真由子	(横浜国立大学)
	竹田智之	(横浜市教育委員会)
	芳賀誠	(厚木市立緑ヶ丘小学校)
指定討論者	堀之内恵司	(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)

KEY WORDS: インクルーシブ教育 共生社会 特別支援教育支援員

【企画趣旨】

令和4年9月9日に国連障害者権利委員会から日本政府へ出された勧告（総括所見）では、“通常”の学級で学べない子どもがいることが問題視され、分離された特別支援教育の中止に向け、「インクルーシブ教育」に関する国の行動計画を策定することが求められている。インクルーシブ教育の推進にあたっては、施設のバリアフリー化の問題、多様な背景に応じたカリキュラムの未整備、教員の専門性の不足や業務負担の増大、相互理解の問題といった様々な課題が山積している。このような様々な課題の解決には、専門性の高い教員や支援員の養成や、周囲の児童生徒が多様な他者と協働して学ぶことを歓迎する意識・価値観の涵養が求められる。

そこで、本シンポジウムでは、まず、今年度4月より、専門性の高い支援員の養成や早期から多様な他者との共生力を高めることに着目した教育研究実践に取り組んでいる横浜国立大学 D&I 教育研究実践センター（以下、D&I センター）より話題提供を行う。次に、教育委員会の立場からインクルーシブ教育を推進する上での現状と課題について、横浜市教育委員会の竹田氏に話題提供をいただく。さらに、小学校教諭および特別支援教育コーディネーターの芳賀氏に学校現場からみたインクルーシブ教育の現状と課題について話題提供をいただく。これらを踏まえ、文部科学省の堀之内氏より、国の立場からインクルーシブ教育の現状と課題、さらに今後に向けて大学、教育委員会、学校に求める事柄にを指摘いただく。これらの協議を通して、D&I センターが、取り組むプロジェクトの更なる推進のために何が必要なのか、今後の活動に向けた新たな知見を得たいと考えている。

【話題提供者の趣旨】

横浜国立大学 D&I センターによる「共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト」について(泉真由子)

令和5年4月に設置された D&I 教育研究実践センターでは、障がい等の有無にかかわらず、すべての子どもが安全・安心な環境で質の高いインクルーシブな教育を享受できるようにするための教育研究活動に取り組んでいる。「共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト」では、障がいや疾病等により支援を必要とする子どもが在籍する学校に高い専門性を有する人材（専門職支援員）を派遣し、その教育効果を検証していく。また専門職支援員養成のためのカリキュラムを構築し、高い教育的スキルと援助・コミ

ュニケーション能力を有する人材の養成も行っていく。これら本センターの取組について話題提供を行う。

横浜市のインクルーシブ教育の現状と課題について (竹田智之)

横浜市では国のインクルーシブ教育システムの構築の考え方を踏まえ、一人ひとりの子どもの可能性を最大限伸ばしていくことを目指している。多様な学びの場の提供とともに、「特別支援教育支援員事業」として市立小・中学校等に在籍している特別な支援が必要な児童生徒に対して支援を行う有償ボランティアを募集している。支援員の主な役割として、集団場面における安全配慮、身辺処理の支援等の校内支援と、校外学習及び宿泊行事における移動支援等がある。支援員の専門性向上に向けては、教育委員会主催で複数回の研修を実施し、子どもの特性理解や支援技術だけでなく、「できることに注目する」こと等、支援に必要な視点についても共有を図っている。

多様な教育的ニーズに対応するための校内体制の現状と課題について (芳賀誠)

筆者は教育相談コーディネーターとして、支援を必要とする児童の実態をより正確に把握するために、教員、支援員、保護者から情報を集約している。週に1回の支援担当者連絡会議、保護者同伴による児童の観察と保護者面談、学級支援を目的とした短時間のミニケース会議、校内支援教室（パレットルーム）の弾力的な運用、支援員との給食の時間を活用したランチミーティング等を行っている。支援員においては、担当や配置を固定せず、多くの児童にかかわってもらっている。支援員の中でもワークスタイルは多様で、その背景も様々である。現状を維持しながら働きたいという方と機会があれば専門的な研修を受け、スキルアップを目指したいという方もいる。できる限りそれぞれの充実感をもちながら業務に当たってもらいたいと考えている。

【指定討論者の趣旨】

文部科学省、横浜市のインクルーシブ教育・特別支援教育の動向を踏まえて、専門職支援員による教育活動を今後幅広く普及させるためには、どのような手立てが必要であるかをフロアの皆様とともに議論していく。

(IZUMI Mayuko, TAKANO Yousuke, TAKEDA Tomoyuki, HAGA Makoto, MITO Goro)